■大和郡山市観光ボランティアガイドニュース　2021.3.22

ちょっと昔の郡山城下町「鍛冶町について」令和３年３月22日

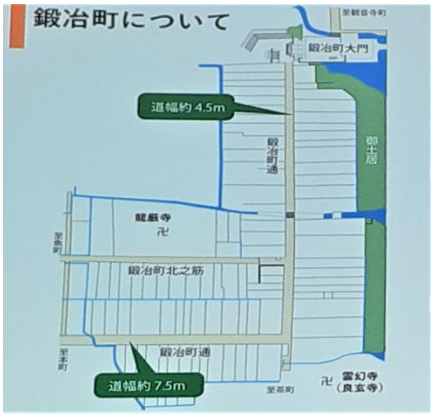
■鍛冶町は、城下町の北東隅付近に位置し、北側と東側は外堀と外部とお土居に接し、城下町と外部との境界に位置するため、鍛冶町大門や高札場がありました。また、近世の鍛冶町は90世帯、300～350人が暮らし、成立当初は鍛冶を職能とする人々が集まっていたと思われます。明治維新後、大和郡山市の町名として現在も存続しています。

今回は、そんな「鍛冶町」の人々の暮らしの今昔をテーマにガイド研修をいただきました。

●講師/大和郡山市都市計画課

山　川　　均　氏

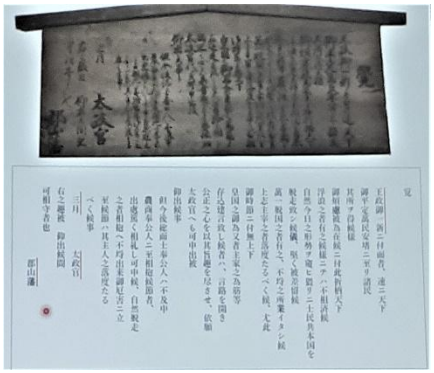
鍛冶を職能とする人々が集まる



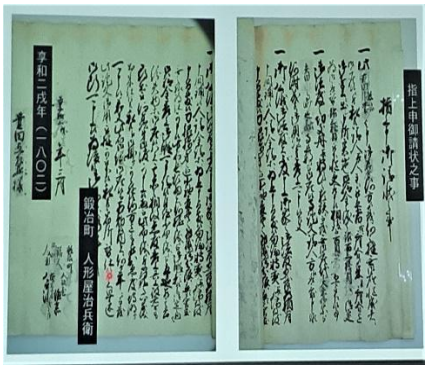
南北方向と東西方向の２筋の道

「食い違う交差点」の謎は？

絵図でみる鍛冶大門（２層構造）

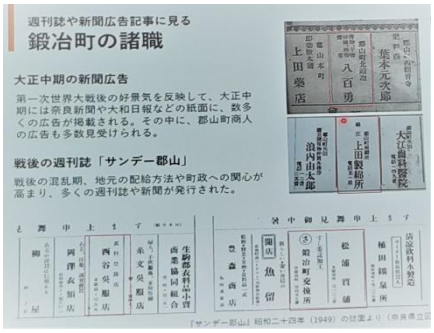


郡山藩が発給した最後の高札



江戸時代の鍛冶町豪商の寄進状

春日若宮社の遷座（大正13年）



サンデイ郡山にみる鍛冶町の諸職

■展示案内

「郡山城下町　今と昔の人々」

第１回　鍛冶町

令和３年４月１日～

箱本十三町「つながりの間」

構成/金澤・写真/岡本・資料/西山

文責/浅井